

【報告 消息】

・荻野家は教会5階からシオン館へ転居しました。お手伝いくださいました兄姉、祈ってくださいました兄姉に感謝します。
シオン館周辺には真嗣兄、真輝兄の友人が多く住んでいます。これを機会に地域の繋がりが深められることを願っています。

・ホザナ礼拝 ほぼ1年ぶりにホザナ礼拝（中高生礼拝）を行うことができました。メッセージは林修養生が担当。今後月1回行っていく予定です。若者たちの救いと信仰成長のために続けてお祈りください。

・4 / 25 礼拝出席者数報告

- 第1礼拝 21名
- 第2礼拝 19名
- 小学科礼拝 小5名 中高5名

・教会総会（決算）について

例年5月末に行っている教会総会は今回も一箇所に集まることはせずに議決権行使書を提出していただく文書総会の形をとらせていただきます。

教職者の交代もあり、本来ならば一堂に会してコミュニケーションを図りたいところでした。しかし、新型コロナウイルスの感染が再拡大しており、日曜日の午後集まるとなれば昼食をどうするかという課題が生じることも考慮し、集まることは断念しました。

コロナ禍という制限のなかにあつての教会運営に難しさも感じます。これからもお祈りをよろしくお願ひ致します。

■次週 母の日記念礼拝

コロナ禍にあつて教会の皆さまや、新来者の方々も教会堂にお迎えできないことが残念です。フォロワーアップ対象の方々には主任牧師交代のご挨拶と共にインターネットで視聴できるをご案内しました。

「「こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。』

御名が聖なるものとされますように。』」

マタイの福音書 6章9節

当時、ユダヤ教の習慣では、午前9時、正午、午後3時と3回祈りの時が持たれていたそうです。ルカの福音書では、主イエスの弟子ひとり祈りを教えてほしいと懇願したことが書かれています。あのバプテスマのヨハネが門弟に教えているように、私たちにも特別な祈りを伝授してほしいと願ったのでした。

バプテスマのヨハネがどういう祈りを教えていたのか分かりません。おそらく荘厳で立派な祈りのことばであったと思います。

ユダヤ教に「アミダーの祈り」（十八祈禱文）というものがあろうです。一祈禱文だけでもとても長い祈りのことばでした。そのような内容の祈りをバプテスマのヨハネも唱えていたのではないかと私は想像します。それに比べて、イエス様の教えた祈りは素朴で簡素と思える内容でした。

マタイ6章9節を見ると「祈りなさい」と記されています。これは現在命令形で書かれており、繰り返し、習慣的に祈りなさいという意味があります。

ここで用いられている「父」という言葉はアラム語では「お父ちゃん」という意味です。神を父のイメージでとらえること、それは、一人一人の個人に限りない愛と関心を持ち、喜んでその祈りを聴こうとしている姿が暗示されています。

また同時に「主の祈り」はキリスト者個人の祈りだけではなく、共同体の祈り、教会の祈りでもあります。不思議なことに、まず最初に神様のために祈って欲しいとイエス様は言われました。言い換えると、神様のことを思っていて欲しい、いや愛して欲しいと願われたのです。なぜなら愛は「関係」であるからです。愛とは完全な自由と対等な立場の間だけに生まれるものだからです。（穂谷）